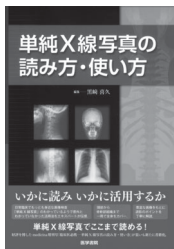


書評

[評者]

木村文子

埼玉医大国際医療センター
教授・画像診断科



単純 X 線写真の読み方・使い方

黒崎喜久 編

● B5 頁 408 2013 年

定価 7,140 円(本体 6,800 円+税 5%)

[ISBN978-4-260-01568-4] 医学書院刊

本書の特徴は、単純 X 線写真の所見を記し、その所見を得るために必要な解剖や疾患の知識が簡潔にまとめられていることである。最初に CR 画像の基礎知識、次に領域別の各論(頭部・頭頸部、胸部、腹部、骨軟部組織)を掲載し、単純 X 線写真が最も威力を発する胸部と骨軟部組織領域に多くのページを割いている。各項目はコンパクトにまとまっているが、最新の疾患概念にも言及し、さらに、単純 X 線写真の横に答えとなる CT や MRI 画像を掲載した理解しやすい本である。研修医必携の一冊であるとともに、放射線診断、内科、外科のスタッフも、楽しく知識を確認することができ、日常の臨床に役立つ良書である。大先輩の先生方により執筆された「ビューワー」(フィルムレス時代に合わせて「シャカすてん」から変更になったとの記述あり)と名付けられた 10 編のコラムは、画像診断のうんちくや読影力向上の極意が含まれ、読んで楽しく、大変なことになる。

本書の編集者である黒崎喜久先生は、頭頸部領域や超音波診断の第一人者であり、多くの著書や論文を執筆されている。しかし、私は、黒崎先生はそのような分野にとどまらず、あらゆる領域の画像診断に造詣が深い、general radiologist の代表選手だと思っている。黒崎先生は、私に画像診断の楽しさと奥の深さを教えてくださり、画像診断の「いろは」をたたき込んでく

ださった恩師である。私が研修医であったころ、黒崎先生から読破するように勧められた本は、『Paul and Juhl's Essentials of Radiologic Imaging』であった。本書『単純 X 線写真の読み方・使い方』を読み終えたとき、Paul and Juhl を思い出した。本書は、名著 Paul and Juhl をコンパクトにし、さらに最新の疾患概念を付け加えた本であるといえるのではないだろうか。

医学は急速に変化し、現在では、画像診断に CT・MRI 診断の占める比重が大変大きくなった。特に多列検出器 CT が出現して以降、画像診断を専門とする放射線科医が、CT・MRI の件数の増加のため、単純 X 線写真を読影できなくなった施設が多い。しかし、単純 X 線写真は、簡便、安価、低被曝であり、さらに、病変を一目で俯瞰でき、前回検査と簡単に比較できるという利点がある。患者さんが外来受診された際に、最初に行われる画像診断であることは周知の事実である。本書は、単純 X 線写真のみでなく、CT や MRI 診断にも造詣の深い各領域のエキスパートにより分担執筆されている。1 枚の単純 X 線写真からここまで診断してやるという執筆者の意気込みを感じることでできる一冊であり、本書精読後には、単純 X 線写真の良さを再確認し、日常臨床の姿勢が変わってくることは間違いないと思われる。